

新潟市立庄瀬小学校



学校データ

【学級数】

7 学級

【児童生徒数】

83 人

【地域教育コーディネーターの有無】

有

地域の伝統に愛着と誇りをもった 児童の育成

1 はじめに

当校は、信濃川とその支流の中之口川に囲まれた旧白根市の南側に位置し、秋葉区、田上町、加茂市にも近い。古くからの農業地域で、特に葡萄や梨の産地として知られている。

今年度創立から113年目を迎え、コロナ禍の中でも感染防止対策を徹底して教育活動を進めてきた。地域からの協力も厚く、様々な人たちとのかかわりの中で地域を知り、地域の伝統に愛着と誇りをもつ児童の育成を目指してきた。

2 取組の実際 第5・6学年

地域の伝統から学ぶ総合的な学習

「調べよう体験しよう凧合戦」

(1) この学習で目指すこと

南区の伝統的な行事「白根大凧合戦」がよく知られているが、当校では長年「子ども大凧合戦」に5・6年生が参加してきた。凧づくりを通して大凧合戦を担ってきた地域の人たちの優れた技術や願いに触れるとともに、大凧合戦に参加することによって自分たちが地域の活性化に役立っているという自己有用感をもてるようになることを目指している。

(2) 大凧作成作業

①墨入れ・色付け

昨年参加できなかった「子ども大凧合戦」に今年は参加したいという思いを高

めた5・6年生が、指導者から大凧の作り方を教わるようになった。墨入れ作業



は重要なため、指導者が作業を行った。色付けは、凧専用の絵の具を使い、刷毛や筆で塗っていく。色は薄い色から濃い色の順番で塗るとよいという指導を受けた。水加減でグラデーションを付ける指導者の技術に児童は感心していた。

②骨組み・貼り付け

細い竹を麻紐で結ぶやり方を見て学んだが、自分たちが結んだ部分はほどこやすく、講師から再度教えてもらいながら作業を進めた。



麻縄で組んだ骨組みに色付けした下絵を貼り合わせていった。細く切った和紙に糊を付け丁寧に竹と合体させていく。



見本の凧は、縄が固く結んであり、びくともしませんでした。骨組みは、友達と二人でやってもできませんでした。プロの人の技を感じました。

(3) 試し揚げ

今年度も「子ども大凧合戦」が中止されることとなり、大凧を揚げるのは運動会での試し揚げのみとなった。しかし、保護者・地域住民の前で5・6年生が作り上げた大凧が見事に大空へ舞い上がった。



(4) しろね大凧と歴史の館での学習

大凧合戦で使われる大凧の見学や大凧の歴史について説明を受けた後、6年児童は小さな和凧作りに挑戦した。



(5) 学習のまとめ

これまでの活動を通して学んだことを多くの人に伝えたいという児童の思いを実現する場として、「地域に感謝する会」を毎年開催している。今年度はタブレット端末を使って活動画像を見せながら6年児童が代表して発表を行った。大凧指導者や地域の人たちも見守る中、地域の伝統を守り元気を与えることの大切さを伝えていた。



ロイロノートでプレゼン資料を作りました。一目で分かる資料作りを工夫しました。発表に必要な資料や情報を集める力が身に付きました。

3 成果と課題

感染拡大のため2年連続「子ども大凧合戦」が中止となった。そのため合戦に参加することで自己有用感を高めることはできなかった。また、合戦の様子も見ることができず、地域の誇りを感じる機会にも恵まれなかった。

6年生児童に行ったアンケートの結果は下記の通りである。

1 大凧作りを通して、制作の難しい点や、優れた技術をもっている大人が地域にいらることが分かりましたか？..

1 とても思う75% 2 思う25% 3 あまり思わない0% 4 思わない0%..

2 大凧の試し揚げでは、見事に揚がった大凧を見てみなさんが元気をもらったり、観客に元気を与えることができたかと思いませんか？..

1 とても思う58% 2 思う33% 3 あまり思わない8% 4 思わない0%..

3 大凧の歴史の学習(しろね大凧と歴史の館見学)や、大凧づくりにたずさわる人たちの話がわりを通して、「地域の伝統を守り、地域を元気にしたい」という願いが、みなさんに伝わりましたか？..

1 とても思う75% 2 思う17% 3 あまり思わない8% 4 思わない0%..

4 収穫を喜び感謝する会での発表に向けて、学んだことをまとめて、地域の方に伝えることができましたか？..

1 とても思う67% 2 思う33% 3 あまり思わない0% 4 思わない0%..

5 大凧の歴史を学んだり、大凧を作成したりする活動を通して、これからも「地域の伝統を守り、地域を元気にしたい」と思いましたか？..

1 とても思う75% 2 思う8% 3 あまり思わない17% 4 思わない0%..

アンケート結果から、大凧作りや試し揚げの活動が、地域に愛着をもち、地域活性に役立ちたいという児童の思いを高めたといえる。大凧に描かれた地域ゆかりの人物について愛着を持たせていくことが今後の課題である。

4 おわりに

当校はコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)のモデル校として2年目を終えようとしている。庄瀬地域にはたくさんの学校支援者が生活している。「地域の人とつながる、地域を愛する子ども」という目指す児童像を共有し、その実現のため、地域とともに教育実践を積み重ねていきたい。